



現行サンバーのミニカーを作った 国産最古のミニカー・ブランド

ダイヤペットのミニカーと スバル・サンバー

photo: Yoshihiro-HATTORI (服部佳洋)

スバル・サンバーの生産中止が発表されて以来、
数多くの駆け込み需要があったという。
長い歴史を誇る軽商用車のマイルストーンだけに、
その実車を手元に置いておきたいと考えるのは、
クルマ好きならば当然だろう。いや、たとえ実車では
難しくても、ミニカーならばそれは容易い。
折しも日本最古の歴史を誇るミニカー・ブランドが、
サンバーのバリエーションを次々に企画しているのだ。



皆さんはダイヤペットというミニカーをご存知だろうか。このダイヤペットというミニカー・ブランドが誕生したのは今から半世紀近く前、1965年の事。現存するブランドとしては国内最古の歴史を誇る老舗中の老舗である。

誕生以来その長い歴史の中で数多くのモデルを送り出して来たダイヤペットだが、そのラインナップは我が国のモータリゼーションの発展に歩調を合わせ、あるいは子供たちの趣味趣向に合わせ、時代とともに様々に変化して来た。マイカーそのものが憧れだった時代には、最新

の国産乗用車がそのラインナップの中心となり、スーパーカーブームの頃には海外のスポーツカーが数多く作られ、またヒーローもの・戦隊ものがはやった時代には劇中車などのキャラクターものも多数生まれた……。

翻って現在。50アイテム以上のモデルが用意されるダイヤペットのラインナップを改めて見渡すと、意外やセダンやスポーツカー等の乗用車は存在せず、建設機械やバス、緊急車輛といったいわゆる「はたらくクルマ」に特化したものとなっている。一家に1台自家用車が当た

り前の時代には、やはり「よりスペシャルなクルマたち」に人気が集まるのだろうか。そんなダイヤペットの現行ラインナップの中でも特に充実しているのが、トラックコレクション・シリーズだ。軽トラックから大型トレーラーまで幅広い車種が用意される同シリーズであるが、今回その中からご紹介するのが、本誌特集の主役でもあるスバル・サンバーのミニカーである。別項でもそのヒストリーをご紹介しているように、半世紀にわたり国産軽商用車のマイルストーンとして君臨し続けて来たサンバーは、昔から数多

問●株式会社アガツマ <http://www.wagatsuma.co.jp> Tel.04-7126-6611(お客様相談室)



くのミニカーやプラモデルの題材にもなって来た。そんな数多くモデルの中でも一番新しいものが、今年のダイヤペットのトラックコレクション・シリーズに加わった現行サンバーのトラックである。スケールは1/36というから、ミニカーの全長は95ミリほど。現在はノーマルの幌付きトラックの他に、パン屋さん仕様とラーメン屋さん仕様、全3種類のバリエーションが存在している。

どちらかという最近のミニカーは非常にリアルで精巧な作りの製品が多く、それらは完全にオトナのコレクター向け製品として流通しているのだが、そんな流れの中で、このダイヤペットだけは昔ながらの素朴で頑強な「子供でもガンガン遊べる」作りが魅力だ。ダイヤペットならではのそんな作風は、スバル・サンバーのキャラクターにも通じるものがあるといったら、大げさだろうか。

■

実はダイヤペットの企画担当スタッフがサンバーのミニカーを企画した時点ではまだアナウンスされていなかったことだが、しかしミニカーが発売されてしばらくして発表された、サンバー生産中止のニュース。日本最古の歴史を持つ軽



●DK-5115
スバルサンバー 軽トラック 幌付き
¥1,680 (税込)

日本最古の歴史を誇るミニカー・ブランド、ダイヤペットのトラックコレクション・シリーズに2011年に加わった新作が、このサンバーのバリエーション。ノーマルのトラックの幌は脱着可能。パン屋さんとラーメン屋さんは荷台の中も再現されている。3車種全てにそれぞれ荷物やノボリ、ベンチなどの小物アクセサリが付属する。



●DK-5116
スバルサンバー 軽トラック パン屋
¥1,890 (税込)



●DK-5117
スバルサンバー 軽トラック ラーメン屋
¥1,890 (税込)

商用車が、その輝かしい歴史にピリオドを打つ。そんな歴史の一場面に立ち会った、日本最古のミニカー・ブランド開発スタッフの面々は、おそらくは何か思う所があったのではなかろうか。

この秋、実車のスバル・サンバーが誕生50周年を記念して限定販売した特別記念モデル"WR BLUE LIMITED"。本誌14ページでもその話題を紹介しているが、その特別記念モデルのリリースからほどなくして、ダイヤペットから

も、実車と同様のカラーを纏った限定ミニカーをリリースするという発表があったのだ。締切直前に飛び込んで来たニュース故、発売時期や価格等の詳細は不明だが、実車とミニカーの老舗ブランド同士が、歴史的な名車の最後の特別仕様車をそれぞれ送り出したという事実にくるま好き、そしてミニカーも好きなファンであれば、何かしらの熱い想いがこみ上げてくるのではないだろうか。

現行サンバーのミニカーを作った国産最古のミニカー・ブランド

写真はトラックとバン、合わせて1,000台が作られた、サンバー発売50周年記念特別仕様車 WR BLUE LIMITED の実車カタログ。二つ折りの全4ページながら、専用のカタログを作ったところに、メーカーのこのクルマへの愛を感じる。

[illegible]

50th Anniversary

SAMBAR WR BLUE LIMITED

DEBUT!

サンバー50年の感謝の気持ちに、スバルスピリッツを込めて。

力強い走り、タフなボディ＆シャーシ、高い機能性——
サンバーは、1961年の誕生以来50年、こだわりのものづくりであらゆる仕事のプロたちに選ばれ、日本を支えてきました。
そしていま、50年の感謝とロンドセーブランドとしての誇りをSUBARUのシンボルカラーに込めて、WR BLUE LIMITED。仕事も遊びも、すべてをアクティブに挑むあなたへ。WRブルーの特別な興奮をお届けしたい。

WR since 1961 一日を支えてきた、サンバー50年のあゆみ

1961年	1965年	1970年	1975年	1980年	1985年	1990年	1995年	2000年	2005年	2010年	2015年	2020年
サンバー	サンバー	サンバー	サンバー	サンバー	サンバー	サンバー	サンバー	サンバー	サンバー	サンバー	サンバー	サンバー

人々の視線を奪う、圧倒的な存在感。鮮やかなブルーをまとった特別な一台。

WR BLUE LIMITED 特別装備

- WRブルー・タイタ（専用は標準装備）
- ① 専用バックシート・イエロー・ステッチ＆ドアリム（標準）
- ② 専用バックシート・イエロー・ステッチ（1400cc）
- ③ エア・コンディショナー（オプション）
- ④ ルーフ・ラック（1400cc）
- ⑤ 専用・バックシート・イエロー・ステッチ（1400cc）
- ⑥ 専用・バックシート・イエロー・ステッチ（1400cc）
- ⑦ サンバー・AT・タイタ（1400cc）
- ⑧ サンバー・AT・タイタ（1400cc）

Truck WR BLUE LIMITED

2WD (MT) 8 SAT 4WD (5MT) 8 SAT

2WD (MT)	899,000円	4WD (5MT)	968,200円
消費税別	938,300円	1,018,700円	1,018,400円

Van WR BLUE LIMITED

2WD 4WD (MT) 8 SAT

2WD (MT)	1,179,000円	4WD (5MT)	1,245,200円
消費税別	1,232,800円	1,306,800円	1,306,800円



※開発中の為、デザインや仕様は異なります。

スバル・ファンには説明するまでもない、栄光のWRPループ。このボディ・カラーを纏ったミニカーがリリースされる。2012年の春までには発売されるようだが、現時点では詳細未定。本誌は不定期のムック故、詳細・続報はダイヤモンドのホームページか、姉妹誌『月刊・モデル・カーズ』誌上に。さらにダイヤモンドのナンバーには、お馴染み赤欄車も追加される予定との事。こちらは2012年の3月登場とアナウンスされている。



●DK-5117 スバルサンバー 赤帽車(仮)
¥1,890(税込)